

石像を披露する小松社長(左)と坂根代表理事



松江のフォトスポットに

「一般社団法人 小泉八雲石像を披露 「へるんロード」

小松電機産業が製作費寄贈

来月末、大橋川沿いに設置

松江市

松江市を盛り上げようと小泉八雲の石像の設置などを企画する一般社団法人「まっえ東本町へるんロード」は、完成した石像のうち1体を同市内で披露した。教壇に立つ姿をイメージした石像で、同市東本町1丁目の大橋川沿いに9月末に設置される予定。

同法人は、同市出身の坂根正敏代表理事(69)を中心に2024年に設立された。同市中心部の繁華街、東本町の一帯を「へるんロード」と名付けて地域活性化に向けて活動している。石像の設置は、八雲の妻セツをモデルにしたNHK連続テレビ小説「ばけけ」が放送されるのに合わせて企画した。企業協賛を募りながら地元産の来待石で12体の石像を製作し、ドラマの放送が終了する来年3月末までに東本町などに設置する計画を立てている。

披露された石像は、高さ1・4メートル、幅80センチ、奥行き60センチの大きさ。師範学校で教える八雲を題材に、八雲が大切にしていた精神「オープン・マインド」の文字が描かれている。

同市八雲町であった夏祭りでも、製作費を寄贈した小松電機産業(同市乃木福富町)の小松昭夫社長(81)と坂根代表理事らが石像を披露。小松社長は寄贈について「コケが付きやすく鉱物と生命がつながる来待石は縁結びの象徴」と説明し、坂根代表理事は「世界に誇る観光都市の松江をアピールするフォトスポットに」と意気込みを語った。

(井川広志)